

# 通常の推論を仮説設定に統一する条件

高原 利生

takahara-t@m.ieice.org 2021.03.13

# 目次

- 1. 前提、概念、仮説 p3
- 2. 思考の構造(抽象化ー推論ー具体化) p4
- 3. 今、把握されている推論 p10
- 4. 推論を仮説設定に統合 p12
  - 41. 要点
  - 42. 結論
- 5. これから p15
- 謝辞、参考文献 p16

# 1. 前提、概念、仮説

事実

1 客観的事実

2 一次情報（観念）

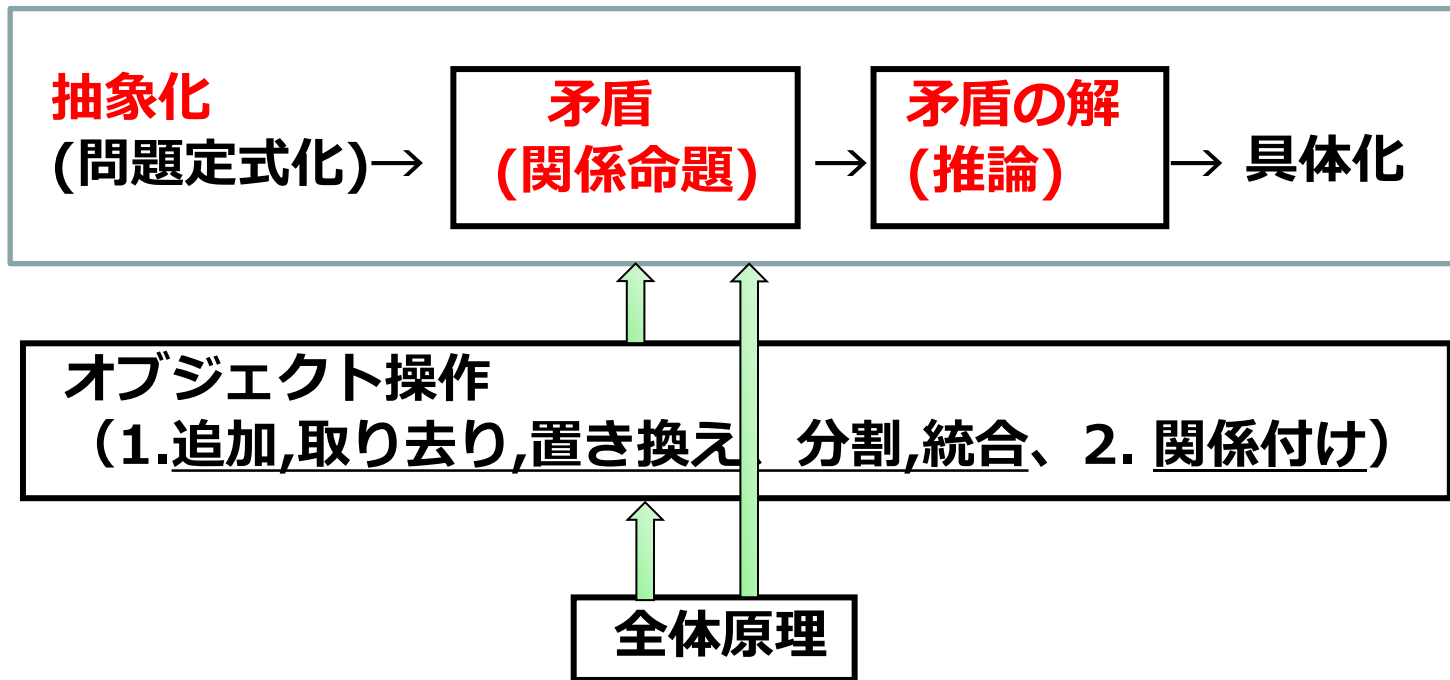
3 それを対象化した二次情報（観念）

3の二次情報で述べる言説は常に**仮説**であり、その正しさは、検証され、正しいかどうかはその結果でわかる

より正しい仮説を作る歴史が、真理や哲学（世の中の認識である**世界観**と世の中の認識と変更の方法である**論理学**）を変え続ける

**大雑把な議論、原論文と変わっているところがある**

## 2. 思考の構造 (抽象化—推論—具体化)



ものの存在を表現する存在命題 (扱わない: 条件1)

オブジェクトの属性を表現する属性命題

オブジェクト間の関係を表現する関係命題

「関係命題—推論」と「矛盾—矛盾の求解」は同じ

## 2. 思考の構造 **基本概念**: オブジェクト、粒度(抽象度)、網羅

三概念	説明
<b>オブジェクト</b>	ある <b>粒度</b> で事実から知覚と観念により切り取られ表現できる情報
<b>粒度</b>	空間的範囲、時間的範囲、属性
<b>網羅</b>	「抜け」の無いように全体を個々の要素で数え上げること

例えばある学校内の背の一番高い子を探すためには、その学校内の生徒の**網羅**が必要、つまり網羅された中から選ばれる必要があり、同時に網羅はある粒度に拠って行われる。例えば生徒とは何か、粒度(できれば世界の中の当の学校の粒度、世界の中のその学校の位置を理解)

物理的網羅ができない場合 → **論理的網羅(種類、型) → 抜けのない正確な推論が可能**

## 2. 思考の構造：矛盾モデル＝運動モデル

「オブジェクト1－関係－オブジェクト2」という矛盾モデル

これが、関係し合い変化している世界の**近似**単位。矛盾モデルの合成によって、世界のあらゆる事象を表せる

矛盾	説明
1. 差異解消矛盾	通常の変化、変更.
2. 両立矛盾	通常のも矛盾。二項を(一時的に)両立 例: エンジンの大出力と軽量:機能と構造
3. (特別な) 両立矛盾: 一体型矛盾 [TS2010,11] [FIT2016,17]	二項がお互いを変更し続ける両立矛盾 例: 一体化と対象化, 思考と学習

## 2. 思考の構造,位置

認識と操作の論理の分かる事実が、扱える対象

生きること = (知覚 ⇔ **生き方** ⇔ 文化・文明の支援  
による認識と行動) ⇔ 事実

**生き方** = ((潜在意識、態度、感情) ⇔ **哲学**) ⇔ 事実

**哲学** = (世界観 → 価値観) ⇔ (思考の**論理(学)**,方法)

## 2. 思考の構造 (全体の中の位置)

### 思考の機能を実現する論理学

世界観 + 論理学 = 哲学(常識) → 生き方

形式論理と文法の中間の弁証法論理学  
ギリシャ哲学、ヘーゲル、最近ではプラグマティズム、マルクス主義、  
西田哲学などの弁証法

本稿の弁証法論理学は、プラグマティズムの弁証法  
TRIZのアルトシュラーの弁証法がもとになっている



## 2. 思考の構造：矛盾モデル＝運動モデル 矛盾(運動)の分類

矛盾	結果の型	運動の型	変化の型	説明と例
差異解消矛盾	量的変化	永続的	値	通常の変化、変更 例: マントル運動
	質的変化	一時的	値から属性	通常の変化が質的変化を起こす 例: 地震
	二項の両立	一時的	値	同時に 岡山と東京にいる
両立矛盾			属性	機能と構造(エンジンの大出力と軽量)
	質的変化	一時的		全ての製品
	変化の持続	永続的		男と女。進化の機能と構造。 労働、交換と消費
一体型矛盾				対象化と一体化(自由と愛)。批判と謙虚さ。

### 3. 今、把握されている推論

#### 命題

ものの存在を表現する**存在命題**、

オブジェクトの属性を表現する**属性命題**、

オブジェクト間の関係を表現する**関係命題**

- ・1 オブジェクト間の関係命題：**演繹**。

オブジェクト(運動を含む)間、属性間の関係、(その結果の)変化を表現する。変化は時系列的連鎖を作る。

- ・2 条件命題：**仮説設定**。

二つのサブ命題が、条件たる前件と結論たる後件になる

存在命題は形式論理に任せ、

**弁証法論理では関係命題、属性命題を扱う (条件1)**

### 3. 今、把握されている推論

- ・演繹a：命題の別の小さな空間時間粒度の命題への変更  
(**一般の特殊化**。情報が増えない)
- ・演繹b：「原因と結果」などの規則性把握に基づいた「正しい」推論の連鎖による(関係)命題の変更である
- ・帰納：粒度の命題の別の大きな粒度の命題への変更  
(**特殊の一般化**。必ずしも正確でない)
- ・仮説設定(**特殊化の別の特殊化**)

## 4. 推論を仮説設定に統合

### 41. 要点1 一般、特殊の相対性利用

一般的、普遍的命題にはさらに普遍的な命題があり、  
特殊的、個別的命題にもさらに特殊な、個別の命題がある。  
一般特殊、普遍個別の差は（論理的網羅の）対象の差である。

（論理的網羅の）対象が大きい命題が一般的、普遍的命題、  
（論理的網羅の）対象が小さい命題が特殊的、個別的命題

**区別はしよせん相対的なので、特殊を極限まで拡大し、  
仮説設定(特殊化の別の特殊化)に、**

**演繹（一般の特殊化） 帰納（特殊の一般化）を含ませる**

（特殊が一般を含むからではない。一般・特殊と抽象・具象の区別  
が紛らわしい。具象は抽象を含む）

## 4. 推論を仮説設定に統合

### 41. 要点2 正確さのための論理的網羅

演繹aは形式論理に任せ、扱わない（条件2）

「正しい」推論の連鎖による演繹bを、論理的網羅による仮説設定に変えるとより正確になる（望ましい条件3）。例：因果関係の論理的網羅による法則的認識による原因を、仮説として演繹を行う

従来の帰納の命題の無条件の一般化を、論理的網羅の結果によって選んだ条件での一般化に代えることでより正確になる（望ましい条件4）

例：従来の単なる今までの状態の延長を、要因の論理的網羅の結果によって過去から選んだ似た状態の延長に代えることでより正確になる。

例：今後の気象を予測するのに、今までと似た気圧、気温、海水温と同じ過去の気象のデータのパターンを選びその後の気象データを使う

## 4. 推論を仮説設定に統合

### 42. 結論

形式論理以外では、**仮説設定Abduction**で統一できる  
**論理的網羅**ができると推論はより正確になる

### 完全ではないが、人が行いうるより善い推論

例

1. 目的と現実の差の解消: 例: 部屋の温度が低いので暖めようとする変更。  
エンジンの出力を大きくしようとする変更
2. 副作用回避ともとの解の両立の目的生成: 例: 部屋を暖めると空気が乾燥する副作用の解消。エンジンの出力大と軽量化の両立
3. その機能と実現構造の両立の矛盾モデルの解の生成  
をこの順に行う

## 5. これから

人の知覚と哲学(論理学と世界観)が、**無意識に**、潜在意識、態度、感情、常識、生き方を作っている

一人一人の哲学、潜在意識、態度、感情、生き方は、同じものの別の現れ

**意識的**生き方を、**少ない概念,原理により作る。**

生き方の基本原理は、

手段、方法として、全体を求める態度、論理的網羅、結果より論理,状態より過程重視

目的として、対象化と一体化の統一

**謝辞:** 日頃支援をいただき中川徹 大阪学院大学名誉教授、関東学園大学本田正美先生のご助言に感謝申し上げます

**文献:** [Taka-44-47] 高原利生「未完成の哲学ノート」2019.3.25 初版. 12版改版中, 制作 MyISBN 発行所 デザインエッグ

メールを送っていただければ  
内容のpdfをお送りします。

[takahara-t@m.ieice.org](mailto:takahara-t@m.ieice.org)または  
[ugg21948@outlook.com](mailto:ugg21948@outlook.com)

概要はAMAZONを高原利生で  
検索すれば見ることができます

